

大船渡林野火災復興支援

第4回 支援団体間ネットワーク会議（仮称） 議事メモ ※要約版

作成：INDS

日時：2025年5月14日（水）17:30-19:20

場所：おおふなぼーと 会議室

主催：いわてNPO 災害支援ネットワーク（INDS）

協力：大船渡市社会福祉協議会（大船渡社協）、おおふなと市民活動センター（CAVO）、
大船渡青年会議所（大船渡JC）

参加人数：20人（15団体）

【趣旨】

・各機関が持っている大船渡森林火災における情報を共有し、今後の支援連携を深める機会としてほしい。

1. 前回会議（4/30 振り返り）

<今後の課題>

- ・仮設住宅支援 ⇒ 仮設住宅移行に伴う支援の模索
- ・避難者の精神的・身体的ケア ⇒ 避難生活の長期化によりケアの必要性が出てきている
- ・生業支援 ⇒ 漁具被害・観光再建の検討が引き続き必要
- ・ボランティア活動の継続 ⇒ 継続的に大船渡に関心を持ってもらえるような仕組み作り
- ・災害廃棄物処理 ⇒ 市の方針が定まっていないため、住宅再建判断にも時間を要する可能性が出てきている。
各種制度説明会、情報周知不足による混乱も出てきている。
- ・おおふなと元気フェス ⇒ 5月25日（日）開催決定

2. 現状と課題について（テーマ別に整理）

>ボランティア活動・ボランティアコーディネートについて

- ・地域での伐採・清掃活動に多くの参加がありニーズの一部は解消されつつある。現在は小規模なニーズが数件。
- ・引っ越し支援等、一部の生活支援ニーズは残るが、多くは親族等で対応されている。
- ・木材処理の方法が未定のため、宅地内でも作業が進まない事例がある。
- ・災害廃棄物処理の仕組みや予算は未定。行政の方針を待っている状況。

>避難所支援・仮設支援・在宅避難者支援

- ・仮設住宅団地には集会所が設けられず、今後の居場所づくりが課題。
- ・一部ではプレハブ仮設の寄贈提案もあるが、導入の可否や所有形態は未定。
- ・引越しは5月中旬以降から開始。地域の旧施設を活用した交流拠点づくりを検討している。
- ・サロン活動やお茶っこ会など、地域とのつながりを意識した支援の準備が進められている。
- ・被害の度合いによって支援格差が生じ、「全部燃えた方が支援が手厚い」と感じる声も。
- ・住宅以外に生業への影響を受けた人など、支援対象の線引きに課題がある。
- ・相談会では感情のはけ口としての役割も果たしており、心のケアや“ガス抜き”の機会もさらに必要。
- ・綾里地域でまちづくり組織の立ち上げにより、今後の居場所支援や情報共有が期待されている。

>生業支援・林業・漁業の再建

- ・漁業者の漁具損失は大きい。漁協支援で賄えない部分は民間の支援金などで対応。6月からウニ漁が本格化。

- ・山林は炭化が進み、復旧が困難。チェーンソーや伐採スキルが必要で、通常的林業と異なる対応が求められる。
- ・苗木費用は地権者負担となるため、再造林が進むかは不透明。
- ・全国とのつながりをつくる、関わりしろをつくることを目的に、生業ボランティア活動も実施されている。

>生活再建・相談支援

- ・仮設入居開始に伴い、今後は相談件数の増加が予想される。
- ・土地や住まいの再建に関する判断に迷う住民もおり、税や制度を含む中長期的な情報提供が必要。
- ・相談者の中には感情の整理がつかない人も多く、相談会が密室だからこそ話せる様子。
- ・情報の丁寧な周知と、感情面への配慮が求められている。
- ・相談に来ない人、みなし仮設の方など、「声なき声」へのアプローチが課題。
- ・地域の繋がりが強い地域では、行政や支援団体がローラー的に全戸訪問する方法も検討価値あり。

>イベント情報について

- ・古本販売会（5/17-20@アバッセたかた）：搬入搬出ボランティア募集。
- ・おおふなと元気フェス（5/25@おおふなぼーと）：運営協力募集中。
- ・地域の元気を取り戻すイベントは、複数団体の協働を通じて実施したい。
- ・5/16から1か月間、おおふなぼーとにて「林野火災の発生、今、これから」についての展示を実施。

>その他

- ・会議への地域住民、公民館長、自治会役員などの参加も今後の検討課題。
- ・義援金の次回配分にあたっては、地元側からの提言・声を届ける役割をこの会議体が果たすべきとの意見も。

3. 次回会議について

【第5回】令和7年5月27日（火）17:30～ @おおふなぼーと2階



ネットワーク会議の様子



会議終了後、「5/25 おおふなと元気フェス」の打ち合わせを行った